

ii. 希少猛禽類調査

現地調査で確認された種のうち、前述の選定基準（表 12.1.4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12.1.4-40 にとりまとめた。その結果、ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、クマタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサの 9 種が選定された。確認状況は以下のとおり、確認位置は図 12.1.4-12 のとおりである。

表 12.1.4-40 重要な鳥類（現地調査：希少猛禽類調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準					
				内		外	①	②	③	④	⑤	
				変更区域							I	II
				内	外							
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○	○			NT		1, 4	
2		タカ	ハチクマ	○	○	○			NT	VU	1, 4	
3			ツミ			○				DD	1, 4	
4			ハイタカ	○	○	○			NT	NT	1, 4	
5			オオタカ	○	○	○			NT	NT	1, 4	
6			サシバ	○	○	○			VU	VU	1, 4	
7			クマタカ	○		○		国内	EN	VU	1, 4	
8	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ			○					1, 4	
9			ハヤブサ	○	○	○		国内	VU	NT	1, 4	
計	2 目	3 科	9 種	7 種	6 種	9 種	0 種	2 種	7 種	7 種	9 種	0 種

注：1. 種名及び配列は「日本鳥類目録改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。

2. 選定基準は表 12.1.4-31 中の番号に対応する。

3. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

○ ミサゴ

対象事業実施区域外で 25 例、対象事業実施区域内で 19 例が確認され、このうち、変更区域内では 17 例が確認された。確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林、竹林、乾性草地、湿性草地、人工地の上空であった。営巣地は確認されなかった。

○ ハチクマ

対象事業実施区域外で 49 例が確認された。対象事業実施区域内で 19 例が確認され、このうち、変更区域内では 14 例が確認された。確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林、竹林、乾性草地、湿性草地、人工地、沢・開放水面の上空であった。営巣地は確認されなかった。

○ ツミ

対象事業実施区域外で 2 例が確認された。対象事業実施区域内では確認されなかった。確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林の上空であった。営巣地は確認されなかった。

○ ハイタカ

対象事業実施区域外で 13 例が確認された。対象事業実施区域内で 5 例が確認され、このうち、変更区域内では 4 例が確認された。確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林、乾性草地、湿性草地、人工地の上空であった。営巣地は確認されなかった。

○ オオタカ

対象事業実施区域外で9例が確認された。対象事業実施区域内で5例が確認され、このうち、改変区域内では2例が確認された。確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林、竹林、乾性草地、湿性草地、人工地、沢・開放水面の上空であった。営巣地は確認されなかった。

○ サシバ

対象事業実施区域外で33例が確認された。対象事業実施区域内で9例が確認され、このうち、改変区域内では6例が確認された。確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林、竹林、乾性草地、湿性草地、人工地、沢・開放水面の上空であった。営巣地は確認されなかった。

○ クマタカ

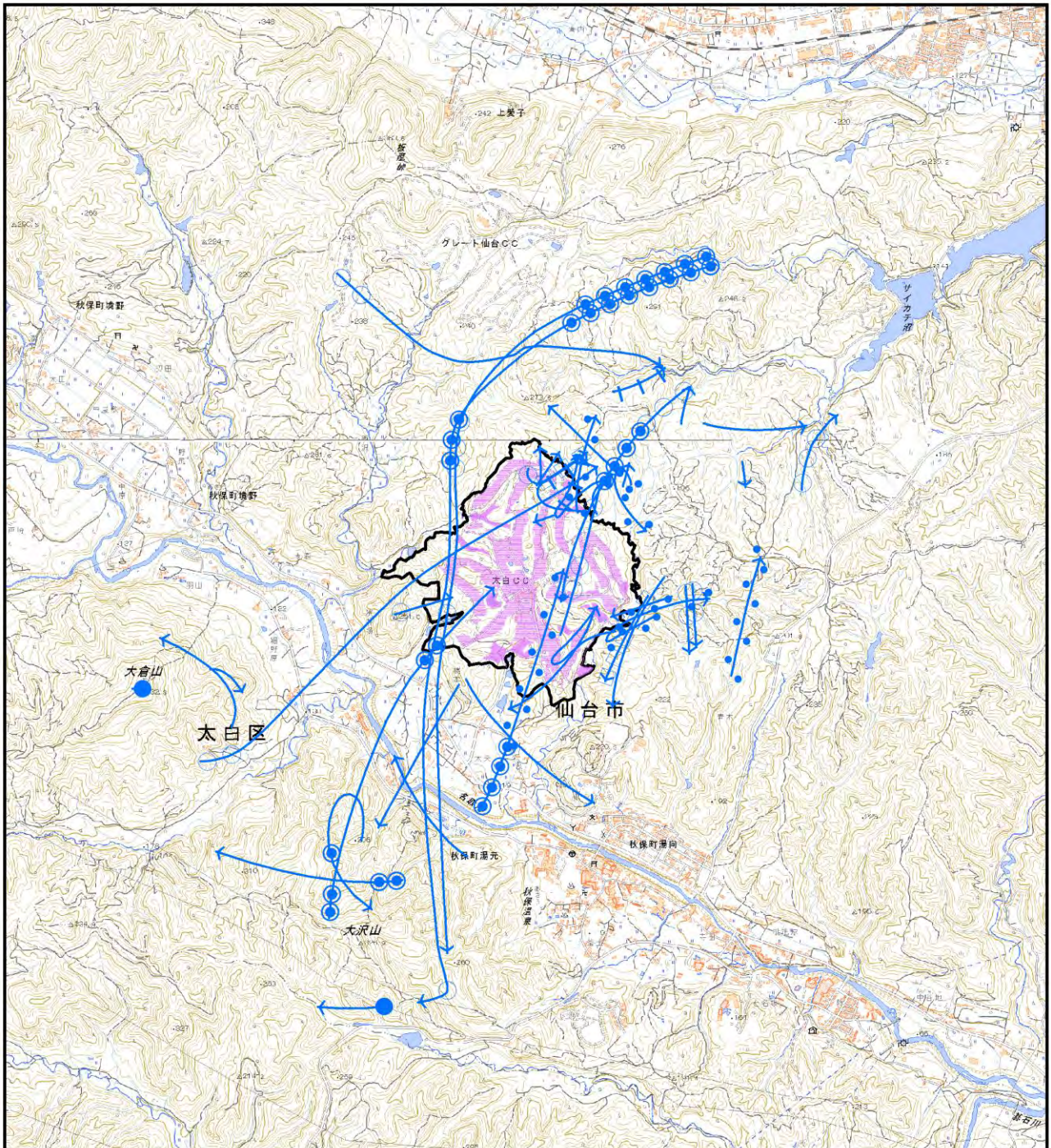
対象事業実施区域外で2例が確認された。対象事業実施区域内で3例が確認され、いずれも改変区域内での確認であった。確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林、竹林、乾性草地、湿性草地、人工地、沢・開放水面の上空であった。営巣地は確認されなかった。

○ チョウゲンボウ

対象事業実施区域外で1例が確認された。対象事業実施区域内では確認されなかった。確認環境は、落葉広葉樹林の上空であった。営巣地は確認されなかった。

○ ハヤブサ

対象事業実施区域外で22例が確認された。対象事業実施区域内で6例が確認され、このうち、改変区域内では5例が確認された。確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林、乾性草地、人工地の上空であった。営巣地は確認されなかった。



凡例

- 対象事業実施区域
- 変更区域
- 確認位置

【確認状況】

- とまり
- 巡回
- 巡回上昇
- 餌運搬
- 巣材運搬

1:35,000

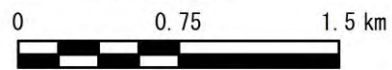
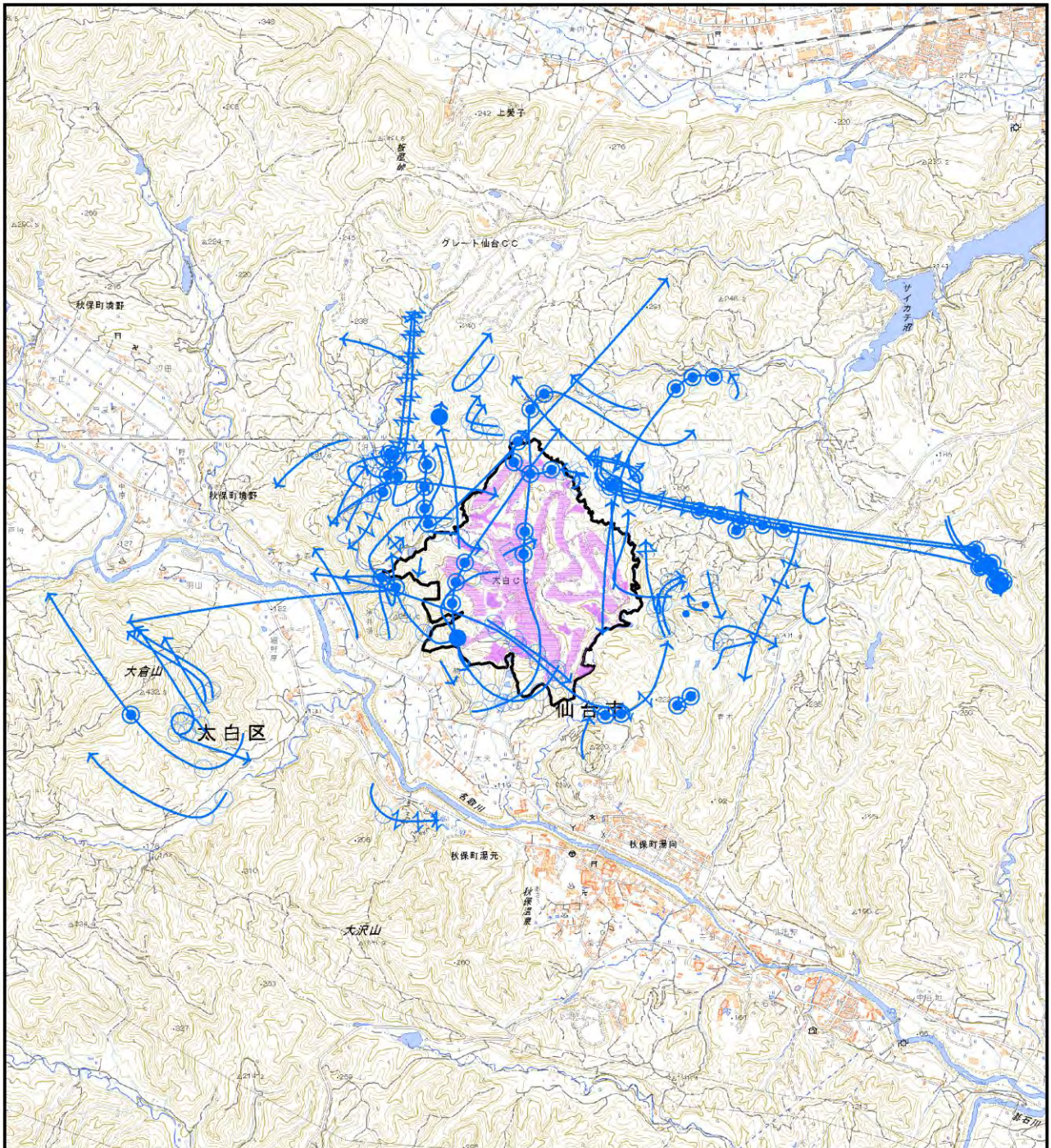


図 12.1.4-12(1) 重要な鳥類の確認位置 (ミサゴ)



凡例

- 対象事業実施区域
- 確認位置
- 変更区域

【確認状況】

- とまり
- ◎ 旋回上昇
- 旋回
- ≡≡≡ ディスプレイ
- 餌運搬
- 探餌

1:35,000

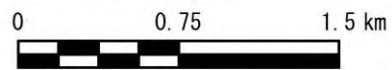
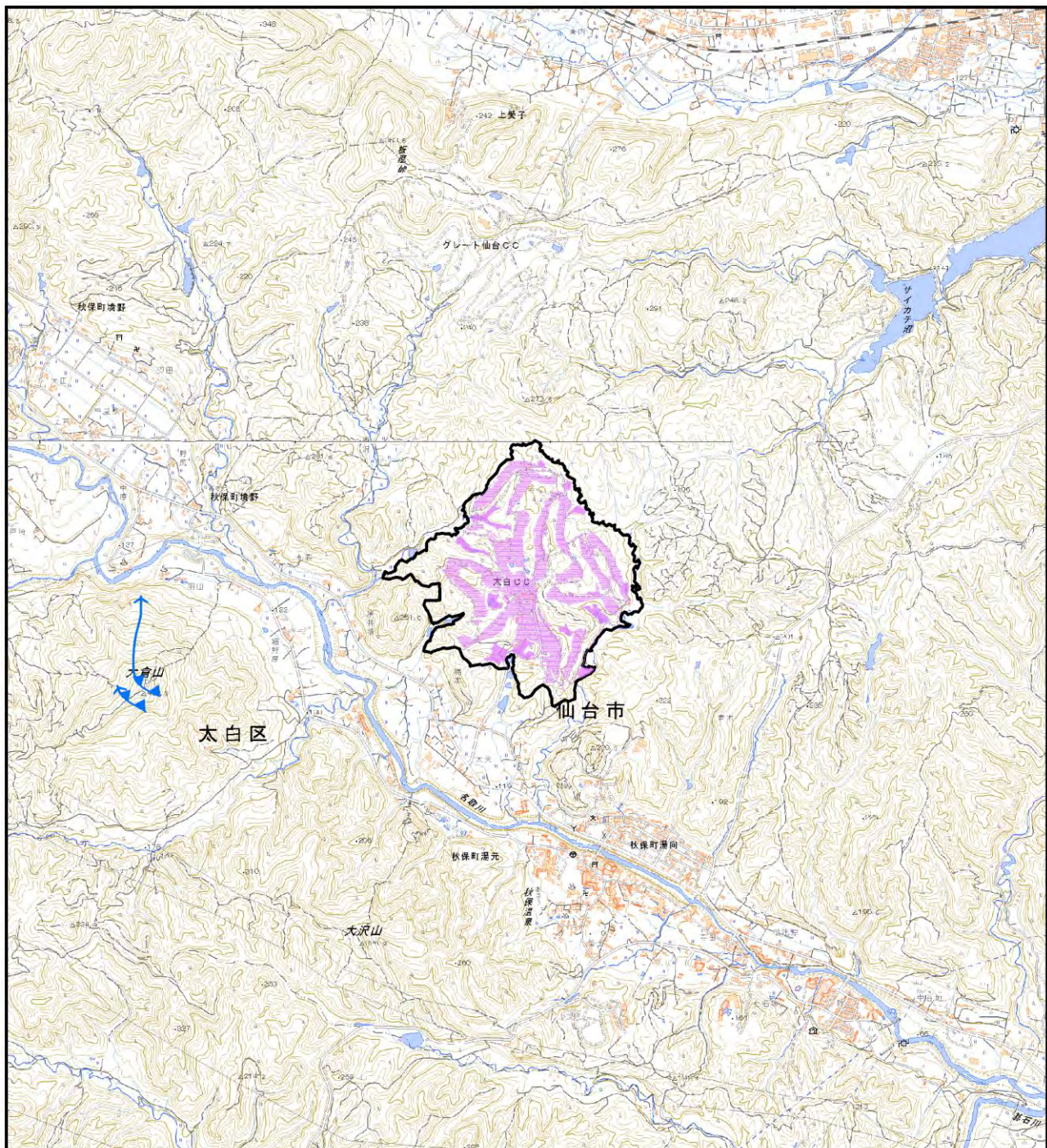


図 12.1.4-12(2) 重要な鳥類の確認位置 (ハチクマ)



凡例

- 対象事業実施区域 ● 変更区域
- 確認位置

【確認状況】

- ▼▼▼ 攻撃

1:35,000

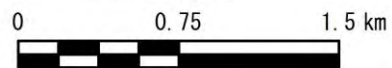
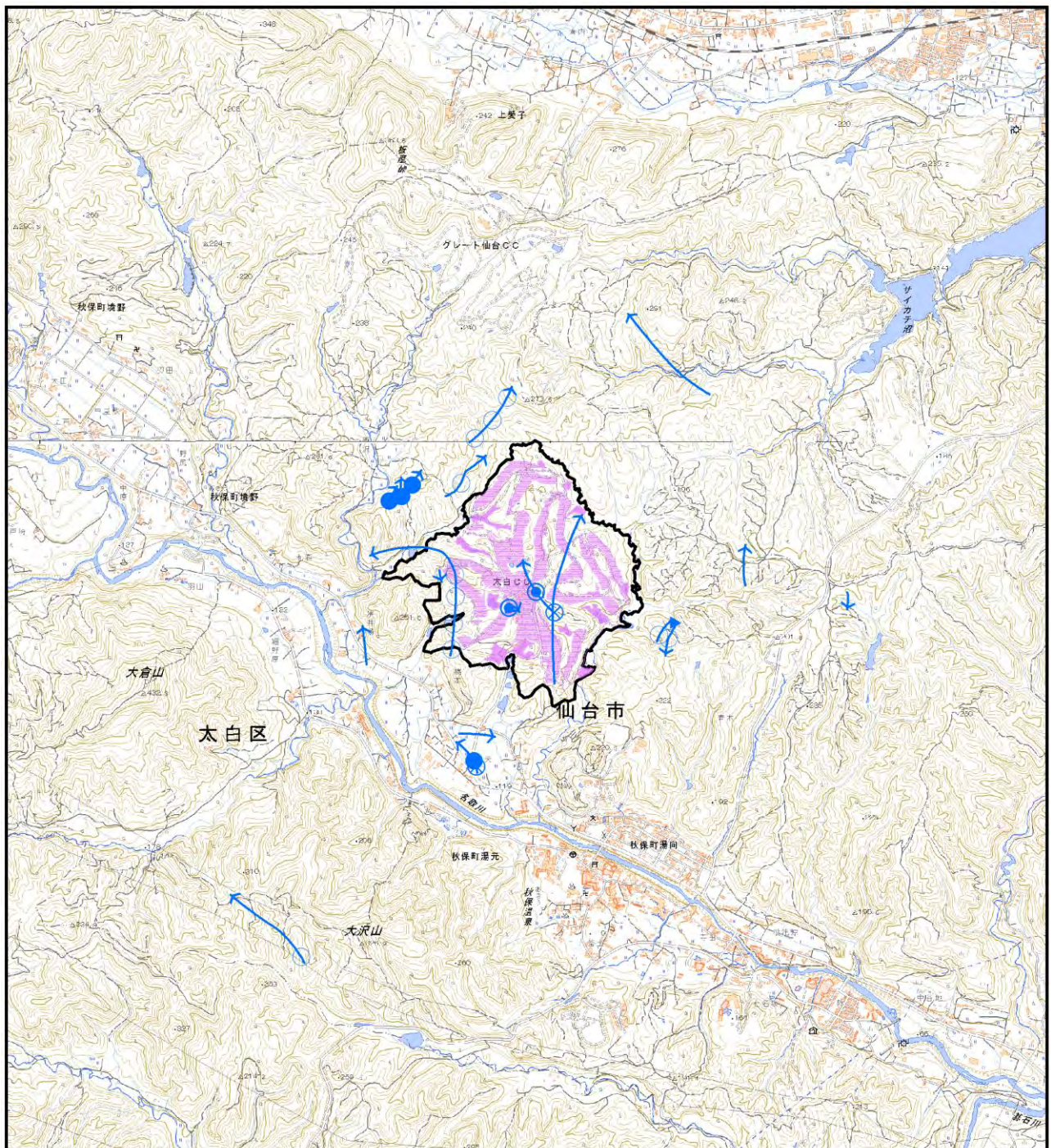


図 12.1.4-12(3) 重要な鳥類の確認位置 (ツミ)



凡例

- 対象事業実施区域 ● 変更区域
- 確認位置

【確認状況】

- ⊗ 狩り
- ▼▼▼ 攻撃
- とまり
- 旋回
- ◎ 旋回上昇
- ≡≡≡ ディスプレイ
- 餌運搬
- ++++ 巣材運搬
- 探餌

1:35,000

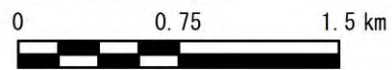
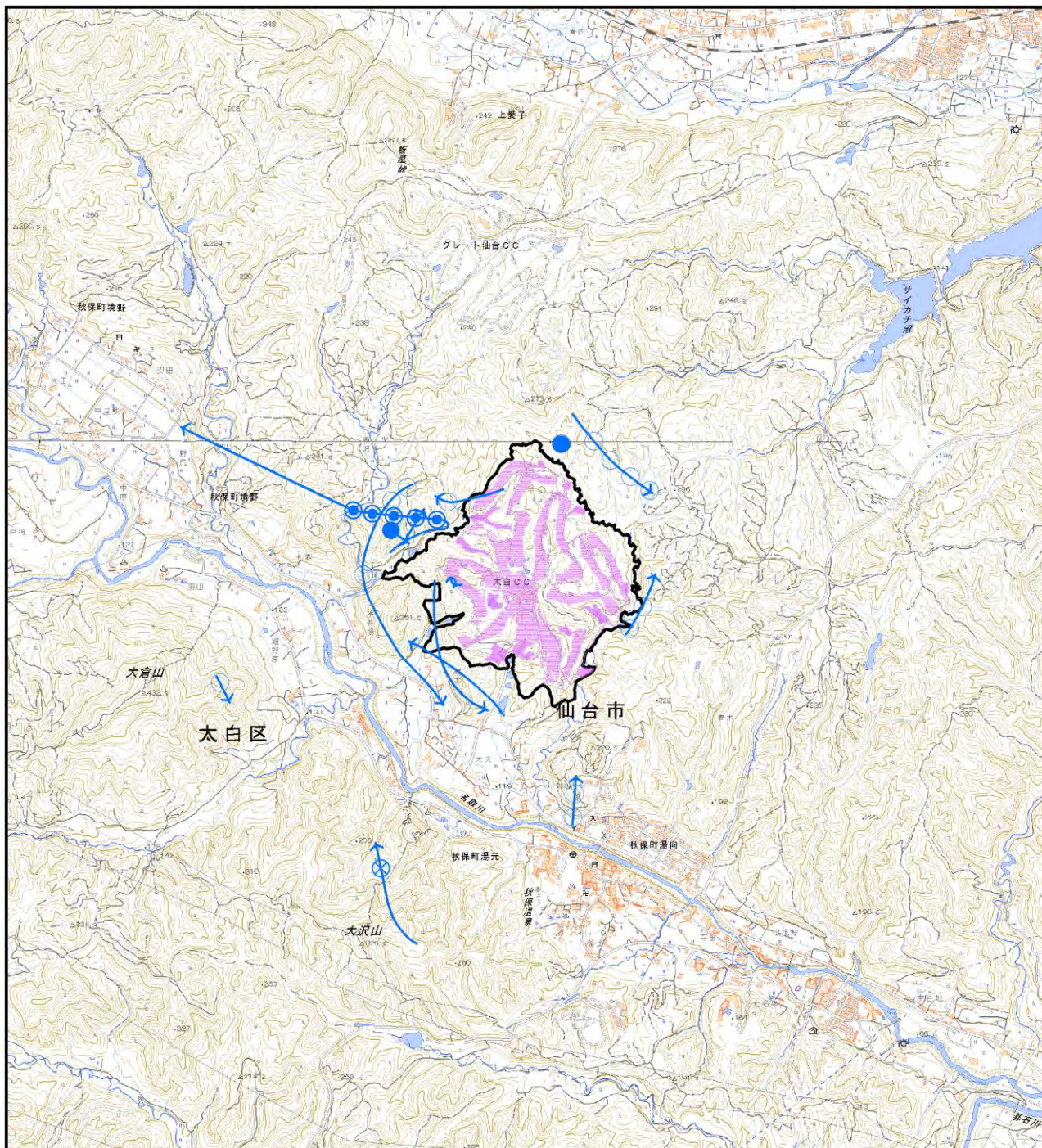









図 12.1.4-12(4) 重要な鳥類の確認位置 (ハイタカ)



凡例

-  対象事業実施区域
-  変更区域
-  確認位置

【確認状況】

-  狩り
-  とまり
-  巡回上昇
-  巡回

1:35,000

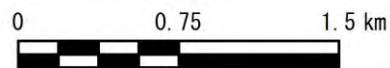
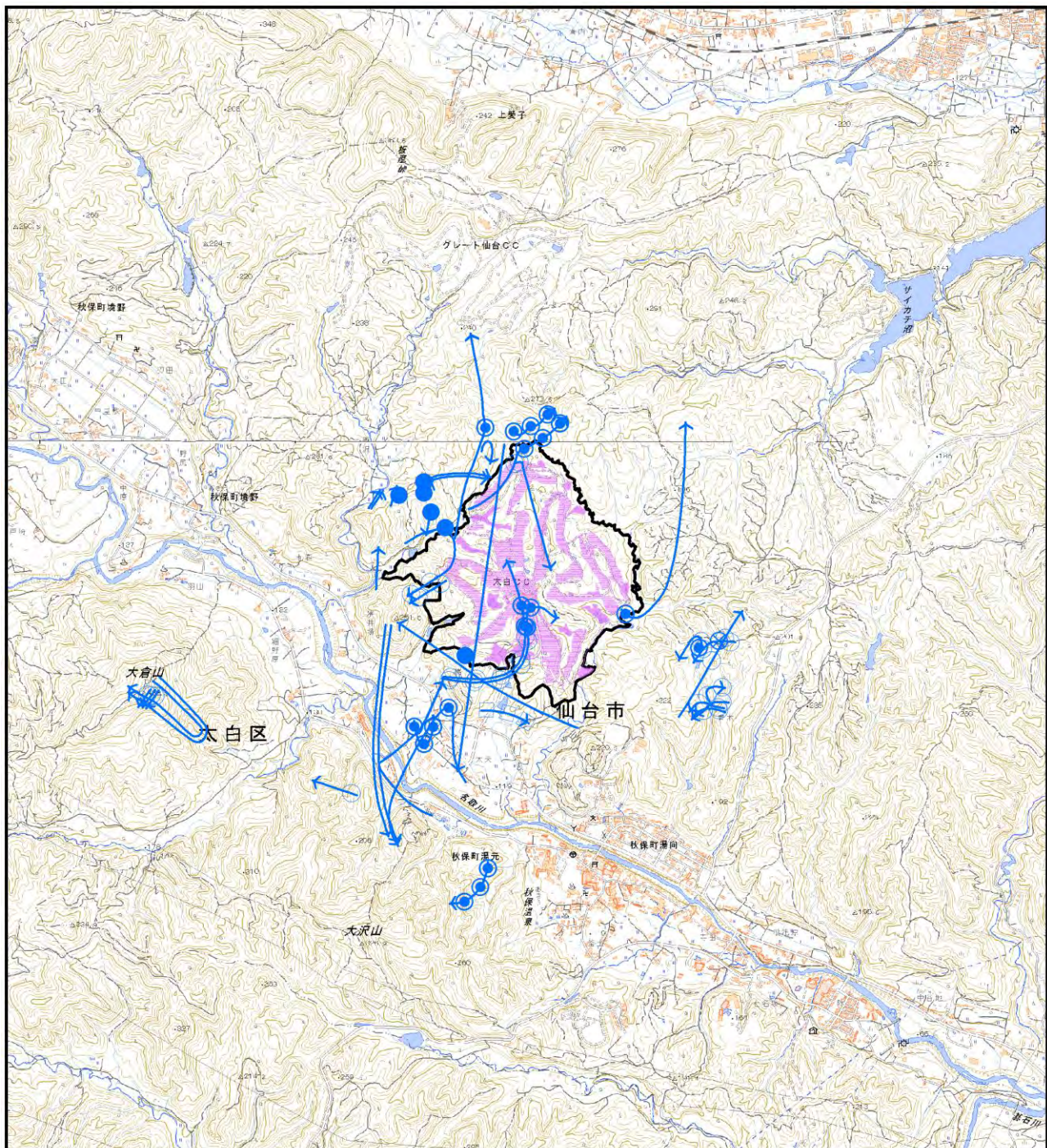


図 12.1.4-12(5) 重要な鳥類の確認位置 (オオタカ)



凡例

- 対象事業実施区域
- 変更区域
- 確認位置

【確認状況】

- ⊗ 狩り
- とまり
- ◎ 旋回上昇
- 旋回
- 探餌

1:35,000

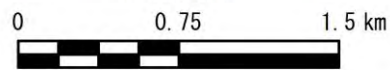
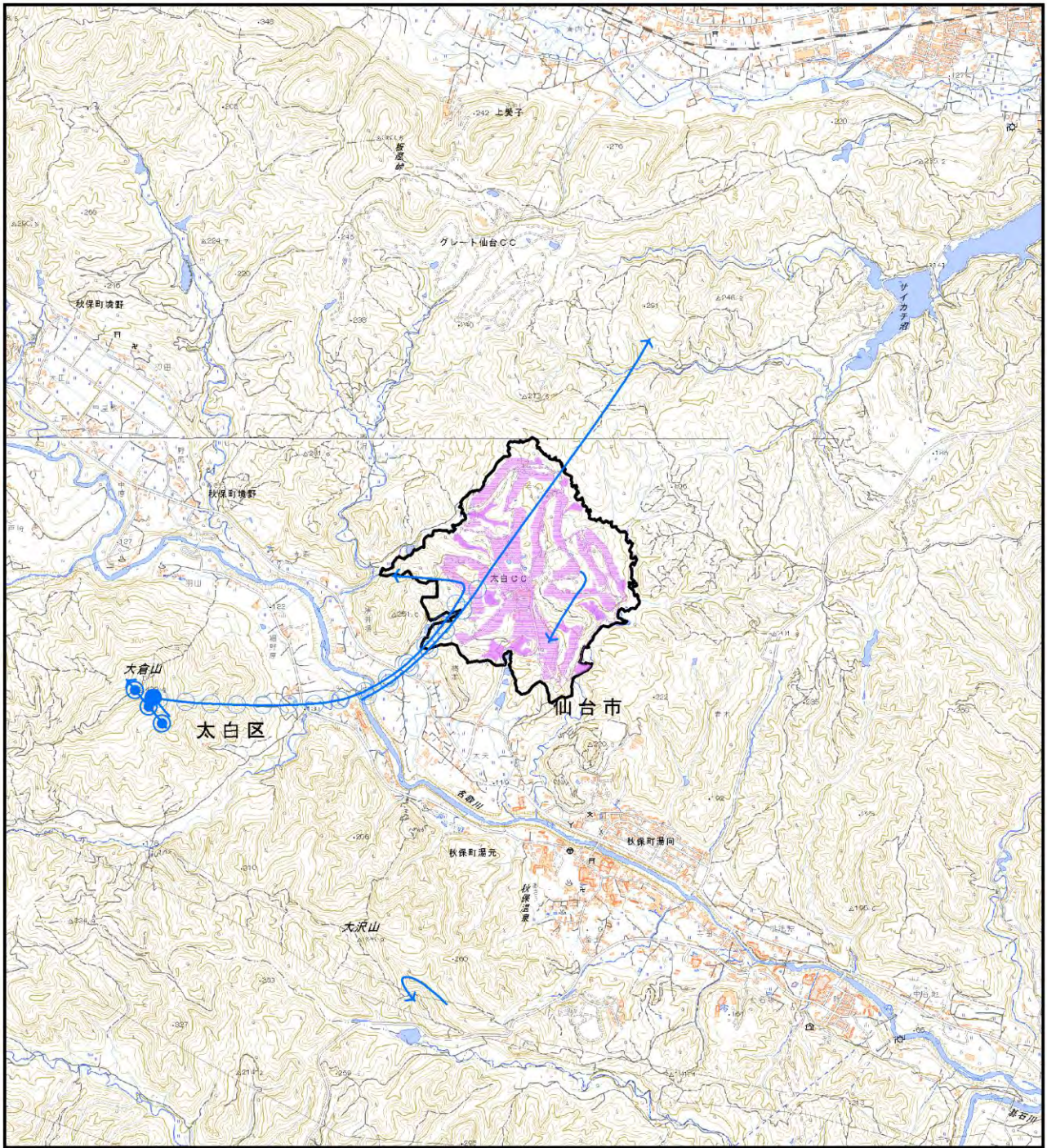


図 12.1.4-12(6) 重要な鳥類の確認位置 (サシバ)



凡例

- 対象事業実施区域 ● 変更区域
- 確認位置

【確認状況】

- とまり ○○○ 旋回
- ◎ 旋回上昇

1:35,000

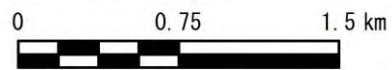


図 12.1.4-12(7) 重要な鳥類の確認位置 (クマタカ)

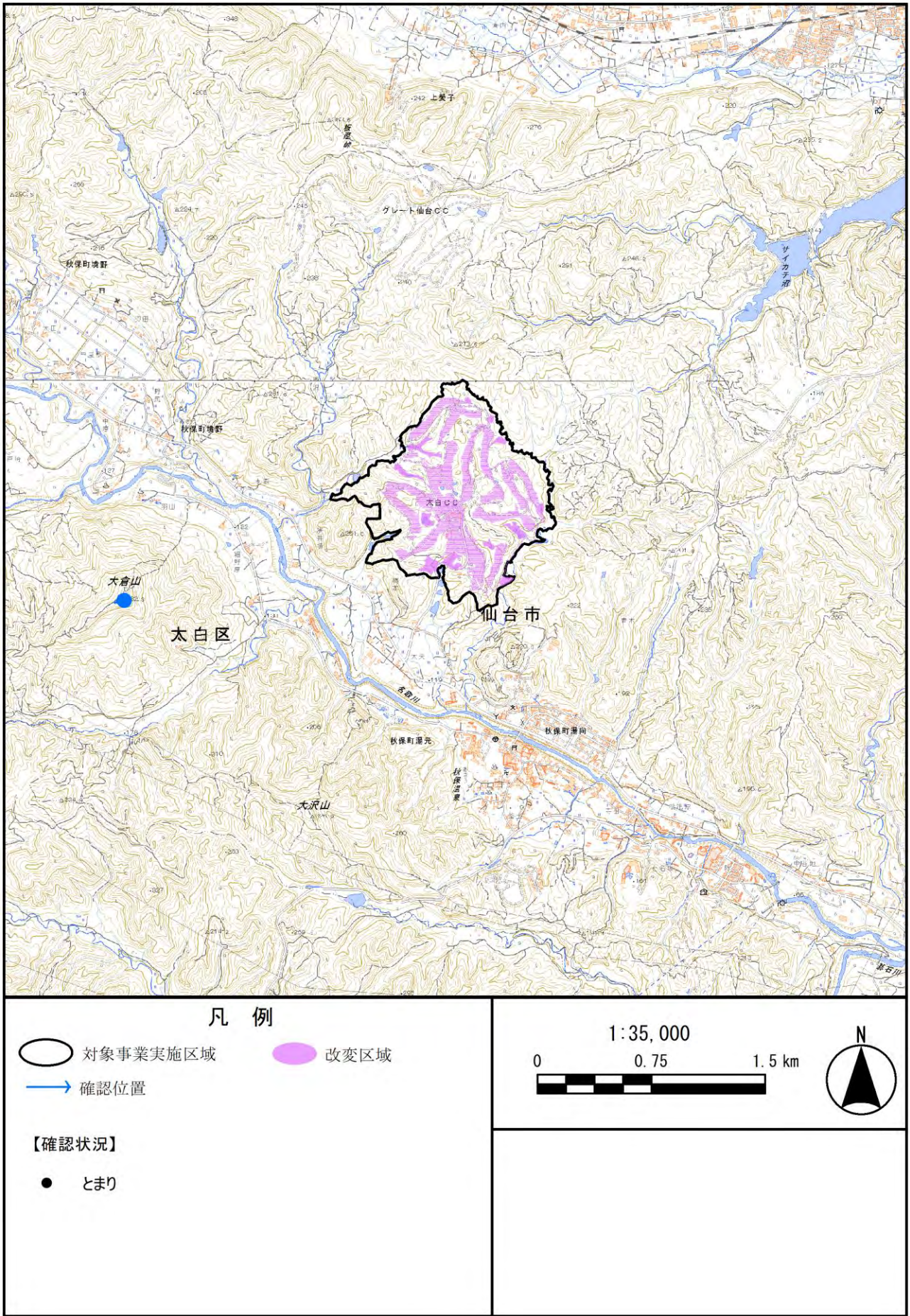
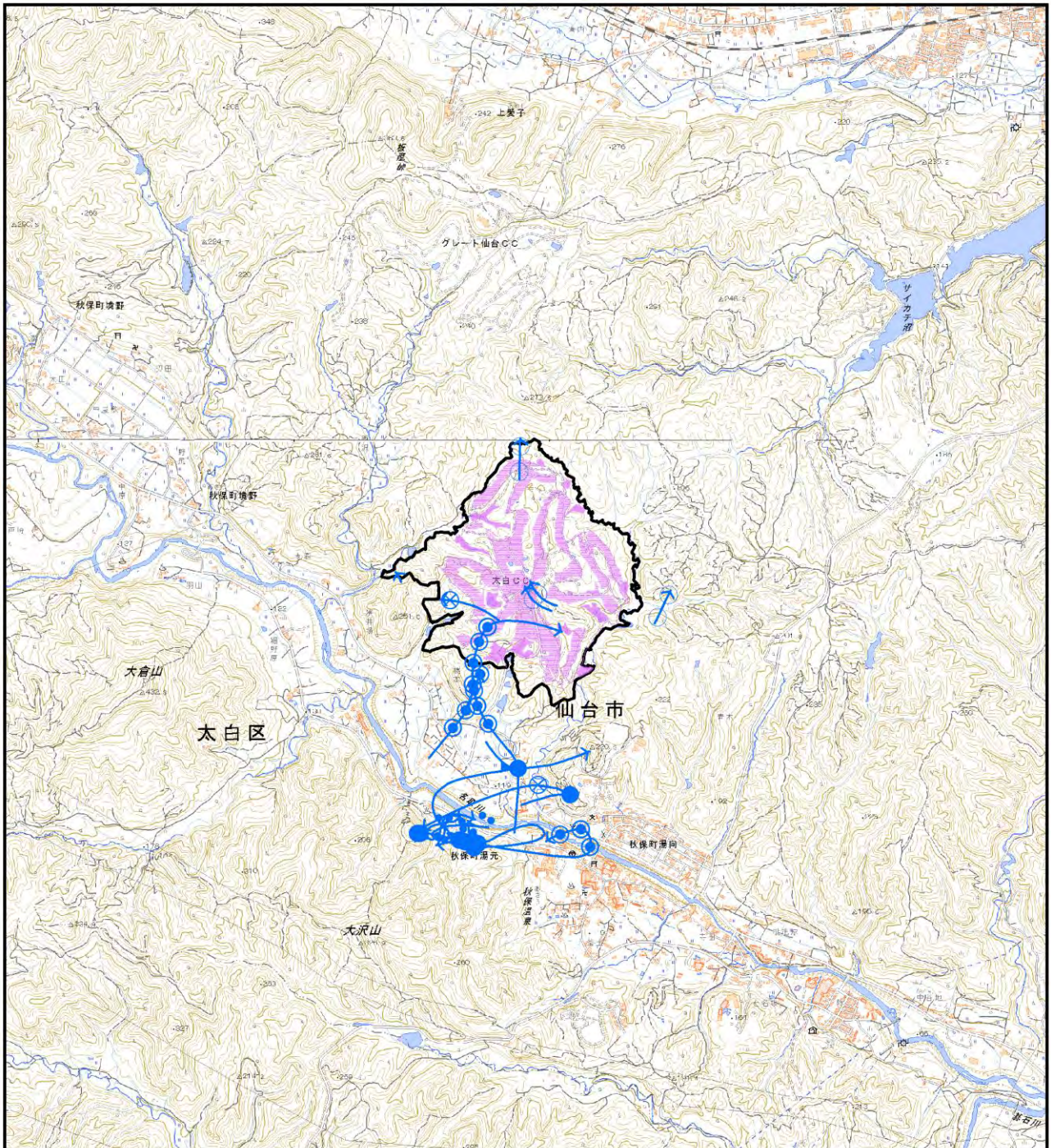


図 12.1.4-12(8) 重要な鳥類の確認位置 (チョウゲンボウ)



凡例

- 対象事業実施区域 ● 変更区域
- 確認位置

【確認状況】

- ⊗ 狩り ▼▼▼ 攻撃
- とまり ○○○ 旋回
- ◎ 旋回上昇 ●●● 餌運搬

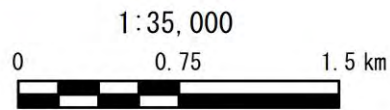


図 12.1.4-12(9) 重要な鳥類の確認位置 (ハヤブサ)

(ウ) 重要な爬虫類

現地調査で確認された種のうち、前述の選定基準（表 12.1.4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12.1.4-41 にとりまとめた。その結果、ヒガシニホントカゲの 1 種が選定された。確認状況は以下のとおり、確認位置は図 12.1.4-13 のとおりである。

表 12.1.4-41 重要な爬虫類（現地調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準						
				内		外	①	②	③	④	⑤		
				改変区域							⑤		
				内	外						I	II	
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○	○						1	
合計	1 目	1 科	1 種	1 種	1 種	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	

注：1. 種名及び漢記列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（河川環境データベース 国土交通省、令和3年）に準拠した。

2. 選定基準は表 12.1.4-31 中の番号に対応する。

3. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

○ ヒガシニホントカゲ

対象事業実施区域内の 2 地点で成体計 2 個体、対象事業実施区域外の 1 地点で幼体 1 個体が確認された。このうち、改変区域内では 1 地点 1 個体が確認された。

確認環境は、草地や石垣等の人工構造物であった。

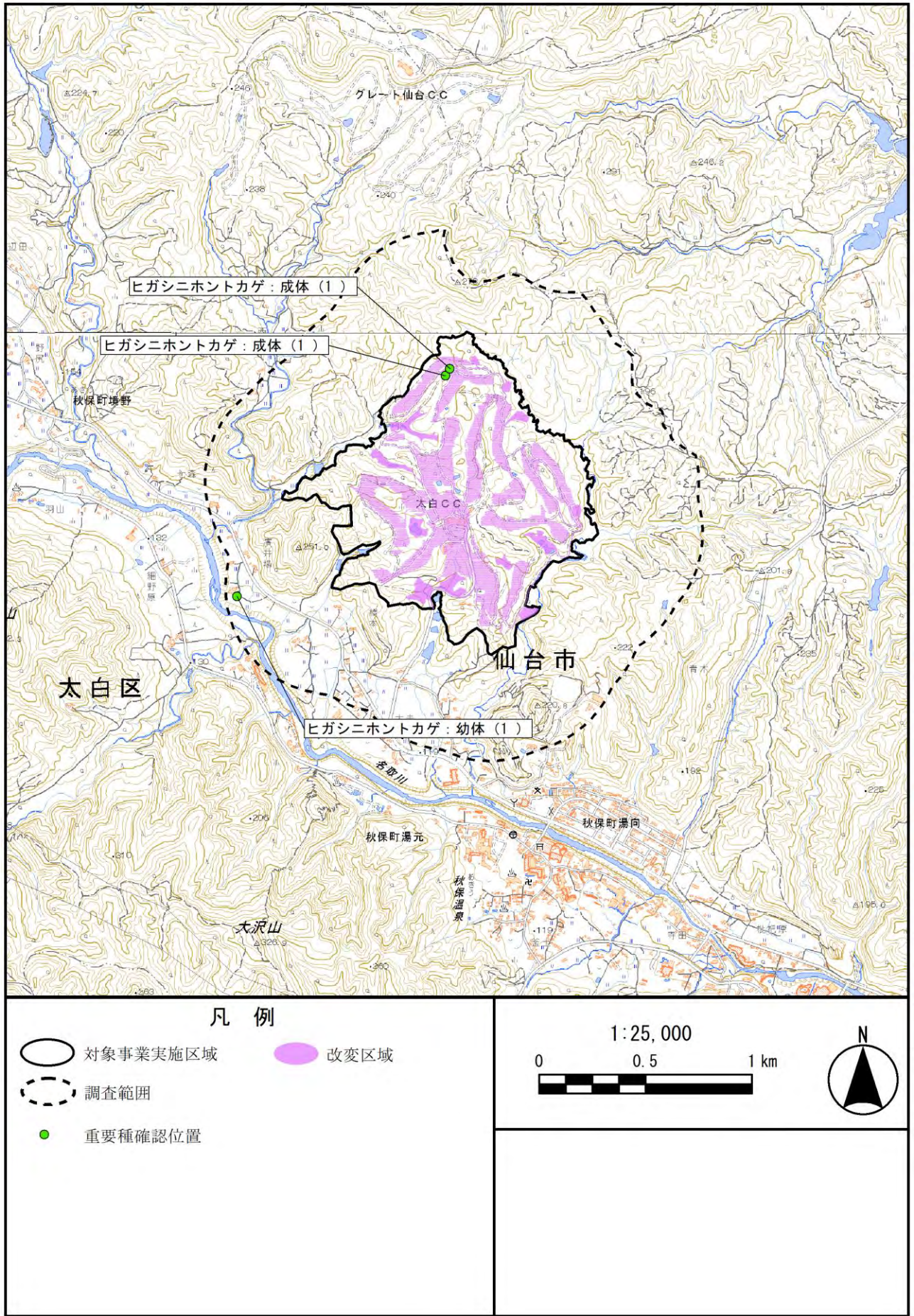


図 12.1.4-13 重要な爬虫類の確認位置

(I) 重要な両生類

現地調査で確認された種のうち、前述の選定基準（表 12.1.4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12.1.4-42 にとりまとめた。その結果、トウホクサンショウウオ、サンショウウオ属、アカハライモリ、タゴガエル、ヤマアカガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエルの 6 種が選定された。確認状況は以下のとおり、確認位置は図 12.1.4-14 のとおりである。

表 12.1.4-42 重要な両生類（現地調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準					
				内		外	①	②	③	④	⑤	
				変更区域							I	II
				内	外							
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	○	○	○			NT	NT	4	
-			サンショウウオ属*		○	○			●	●	●	
			(トウホクサンショウウオ)						(NT)	(NT)	(4)	
			(クロサンショウウオ)						(NT)	(LP)		
2		イモリ	アカハライモリ		○	○			NT	LP		
3	無尾	アカガエル	タゴガエル		○	○				NT		
4			ヤマアカガエル		○	○				NT		
5			トウキョウダルマガエル		○	○				NT	NT	
6			ツチガエル	○	○	○					NT	
合計	2目	3科	6種	2種	6種	6種	0種	0種	3種	6種	1種	0種

- 注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（河川環境データベース 国土交通省、令和3年）に準拠した。
2. 選定基準は表 12.1.4-31 中の番号に対応する。
3. 表中の※については以下のとおりである。
 ※：サンショウウオ属は、トウホクサンショウウオまたはクロサンショウウオである。幼生での確認は同定形質が不明瞭であったため、種を特定するには至らなかった。トウホクサンショウウオが確認されている場合は種数の合計に計上しない。
4. ツチガエルについては、令和4年にムカシツチガエルとして新たに別種として分類された。生息域を踏まえると、本調査で確認されたツチガエルはムカシツチガエルに該当すると考えられる。
5. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区別されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

○ トウホクサンショウウオ

対象事業実施区域内の1地点で成体1個体が確認されたほか、8地点で卵のう計29対が確認された。対象事業実施区域外では1地点で成体1個体が確認されたほか、8地点で卵のう計26対が確認された。このうち、改変区域内では1地点で成体1個体、3地点で卵のう6対が確認された。

確認環境は、落葉広葉樹林やスギ植林の沢筋、溜め池であった。

○ サンショウウオ属

対象事業実施区域内の1地点で幼生3個体、対象事業実施区域外の13地点で幼生計約200個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、落葉広葉樹林やスギ植林の沢筋であった。

○ アカハライモリ

対象事業実施区域内の2地点で幼体及び成体計2個体、対象事業実施区域外の8地点で成体計15個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、道路脇の集水畔や溜め池、落葉広葉樹林の谷筋の水たまりであった。

○ タゴガエル

対象事業実施区域内の3地点で幼体計3個体が確認された。また、対象事業実施区域外の7地点で幼体及び成体計7個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、落葉広葉樹林やスギ植林の林床、沢筋であった。

○ ヤマアカガエル

対象事業実施区域内の5地点で幼生、幼体及び成体計約500個体が確認された。対象事業実施区域外の10地点で幼生、幼体及び成体計52個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、落葉広葉樹林やスギ植林の林床、谷筋の水たまり、溜め池及び湿地であった。

○ トウキョウダルマガエル

対象事業実施区域内の3地点で幼体及び成体計9個体、対象事業実施区域外の4地点で幼体及び成体計62個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、水田や休耕田等の湿地、溜め池であった。

○ ツチガエル

対象事業実施区域内の20地点で幼生、幼体及び成体403個体が確認された。対象事業実施区域外の33地点で幼生、幼体及び成体計278個体が確認された。このうち、改変区域内では3地点で幼生、幼体及び成体が33個体確認されたほか、2地点で鳴き声が2例確認された。

確認環境は、落葉広葉樹林やスギ植林の沢筋や溜め池、休耕田等の湿地、用水路であった。

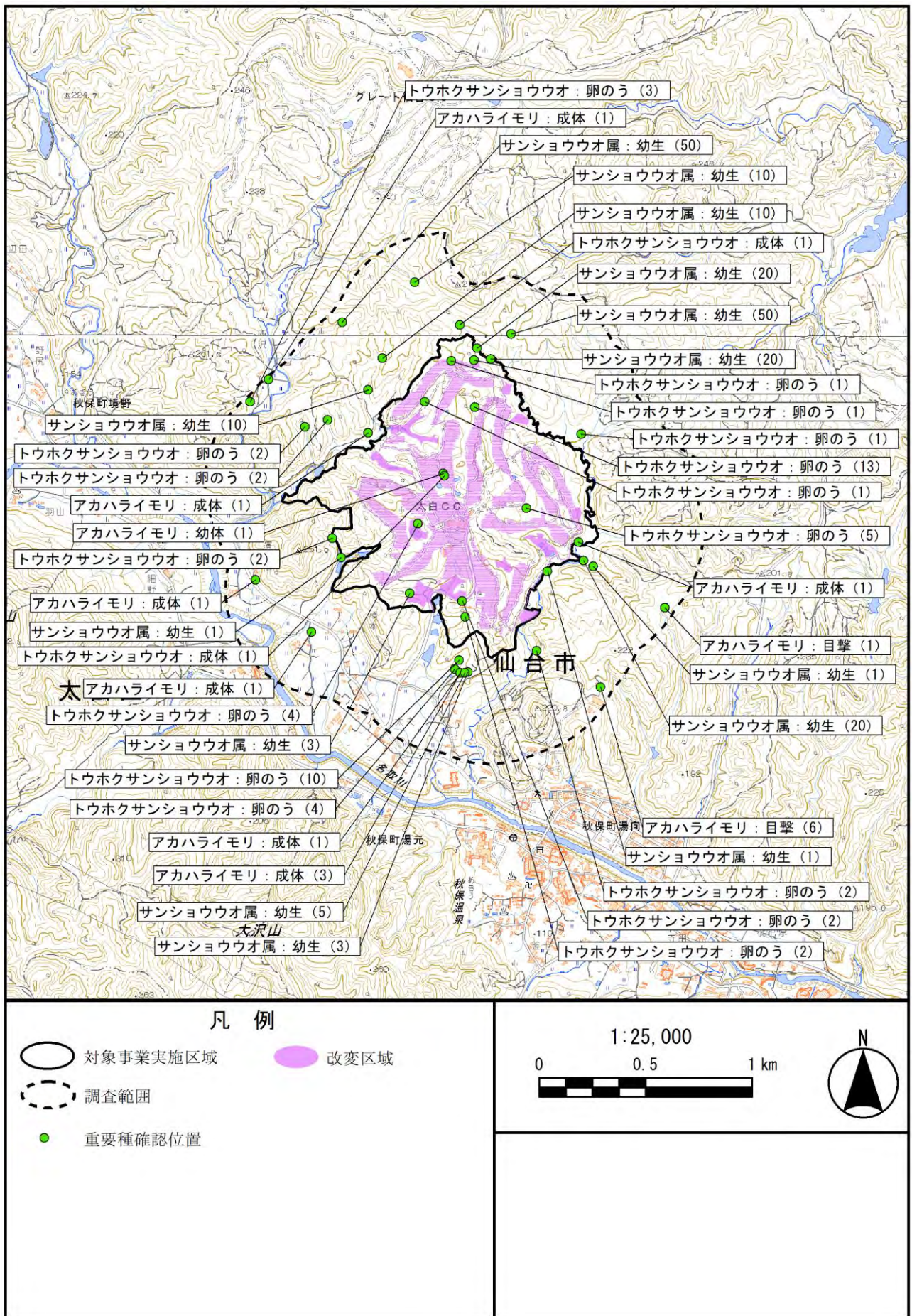


図 12.1.4-14(1) 重要な両生類の確認位置 (サンショウウオ類・アカハライモリ)

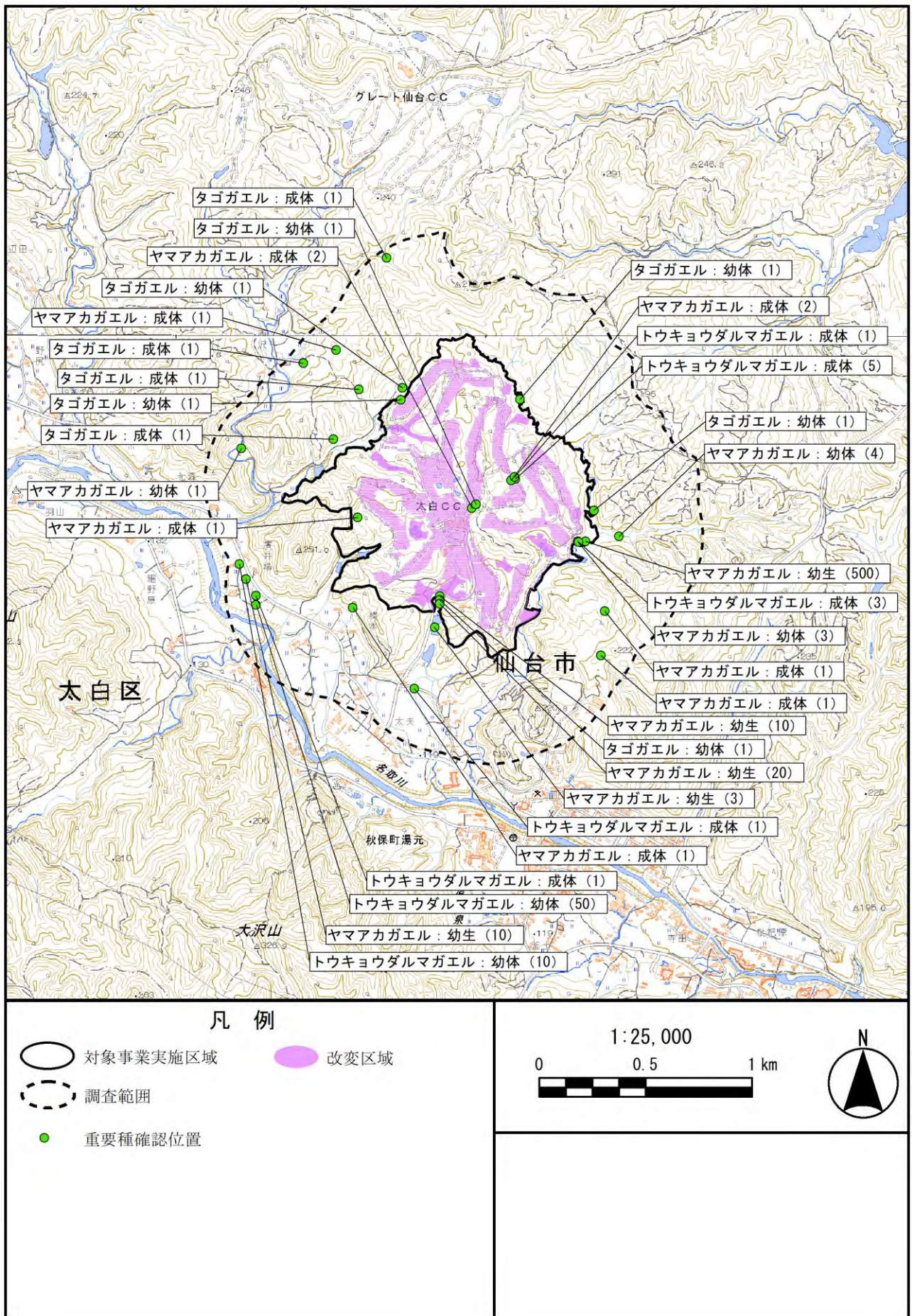
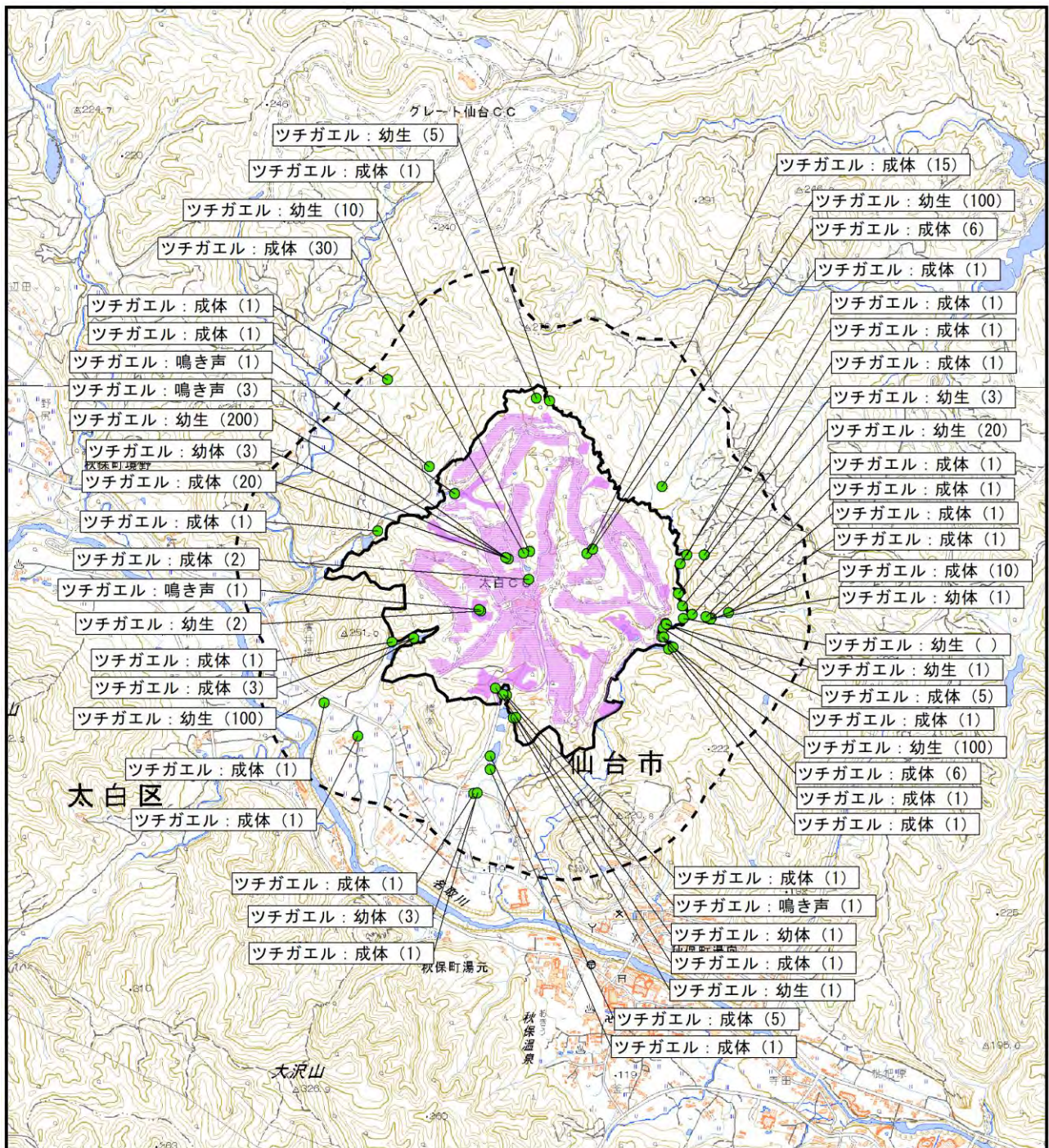






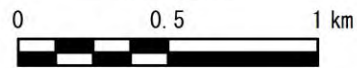
図 12.1.4-14(2) 重要な両生類の確認位置 (アカガエル科 (ツチガエル以外))



凡例

-  対象事業実施区域
-  変更区域
-  調査範囲
-  重要種確認位置

1:25,000



注：ツチガエルについては、令和4年にムカシツチガエルとして新たに別種として分類された。生息域を踏まえると、本調査で確認されたツチガエルはムカシツチガエルに該当すると考えられる。

図 12.1.4-14(3) 重要な両生類の確認位置 (ツチガエル)

(オ) 重要な昆虫類

現地調査で確認された種のうち、前述の選定基準（表 12.1.4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12.1.4-43 にとりまとめた。その結果、モートンイトトンボ、ムカシヤンマ、コオイムシ、ヤホシホソマダラ、オオムラサキ、ヒメギフチョウ本州亜種、ウスミモンキリガ、ネグロクサアブ、クロゲンゴロウ、ゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、ミズスマシ、ガムシ、ケブカツヤオオアリ、モンズズメバチ、クズハキリバチの 17 種が選定された。確認状況は以下のとおり、確認位置は図 12.1.4-15 のとおりである。

表 12.1.4-43 重要な昆虫類（現地調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準					
				内		外	①	②	③	④	⑤	
				変更区域							I	II
				内	外							
1	トンボ(蜻蛉)	イトトンボ	モートンイトトンボ			○			NT			
2		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	○		○					1, 4	
3		コオイムシ	コオイムシ		○	○			NT	NT	1	
4	チョウ(鱗翅)	マダラガ	ヤホシホソマダラ	○					NT			
5			オオムラサキ		○	○			NT		1	
6		アゲハチョウ	ヒメギフチョウ本州亜種	○		○			NT	NT	1	
7		ヤガ	ウスミモンキリガ		○				NT			
8	ハエ(双翅)	クサアブ	ネグロクサアブ			○			DD			
9	コウチュウ(鞘翅)	ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ		○	○			NT			
10			ゲンゴロウ		○	○		特定	VU	NT	1	
11			マルガタゲンゴロウ		○	○		特定	VU			
12			キベリクロヒメゲンゴロウ		○	○			NT			
13		ミズスマシ	ミズスマシ		○	○			VU			
14		ガムシ	ガムシ		○	○			NT			
15	ハチ(膜翅)	アリ	ケブカツヤオオアリ			○			DD			
16		ズズメバチ	モンズズメバチ	○	○	○			DD			
17		ハキリバチ	クズハキリバチ	○					DD	VU		
合計	5 目	13 科	17 種	5 種	10 種	14 種	0 種	2 種	16 種	4 種	5 種	0 種

注：1. 種名及び漢字の原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（河川環境データベース 国土交通省、令和3年）に準拠した。

2. 選定基準は表 12.1.4-31 中の番号に対応する。

3. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

○ モートンイトトンボ

対象事業実施区域外の1地点で3個体が確認された。
確認環境は、湿地であった。

○ ムカシヤンマ

対象事業実施区域外の4地点で6個体が確認された。対象事業実施区域内の2地点で2個体が確認され、いずれも改変区域内での確認であった。
確認環境は、本種の幼虫が生息可能な染み出し水のある岩上であった。

○ コオイムシ

対象事業実施区域内の1地点で3個体が、対象事業実施区域外の2地点で計4個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。
確認環境は、溜め池及び湿地であった。

○ ヤホシホソマダラ

対象事業実施区域内の1地点で1個体が確認され、改変区域内での確認であった。
確認環境は、溜め池周囲の湿地であった。

○ オオムラサキ

対象事業実施区域内の1地点で2個体が、対象事業実施区域外の1地点で1個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。
確認環境は、エノキの落ち葉上であった。

○ ヒメギフチョウ本州亜種

対象事業実施区域外の3地点で4個体が確認された。対象事業実施区域内の1地点で1個体確認され、改変区域内の確認であった。
確認環境は、草地及び落葉広葉樹林であった。

○ ウスミモンキリガ

対象事業実施区域内の1地点で1個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。
確認環境は、草地であった。

○ ネグロクサアブ

対象事業実施区域外の1地点で1個体が確認された。対象事業実施区域内では確認されなかった。
確認環境は、畑地・水田の道路上であった。

○ クロゲンゴロウ

対象事業実施区域内の1地点で1個体が、対象事業実施区域外の3地点で3個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。
確認環境は、溜め池及び湿地であった。

○ ゲンゴロウ

対象事業実施区域内の1地点で1個体が、対象事業実施区域外の1地点で1個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、溜め池であった。

○ マルガタゲンゴロウ

対象事業実施区域内の1地点で1個体が、対象事業実施区域外の1地点で1個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、溜め池であった。

○ キベリクロヒメゲンゴロウ

対象事業実施区域外の2地点で計11個体が確認された。対象事業実施区域内の2地点で計23個体が確認された。改変区域内での確認はなかった。

確認環境は、溜め池及び沢であった。

○ ミズスマシ

対象事業実施区域外の4地点で計18個体が確認された。対象事業実施区域内の2地点で計2個体が確認された。改変区域内での確認はなかった。

確認環境は、溜め池及び沢であった。

○ ガムシ

対象事業実施区域内の1地点で1個体が、対象事業実施区域外の1地点で2個体が確認された。

改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、溜め池及び湿地であった。

○ ケブカツヤオオアリ

対象事業実施区域外の2地点で計6個体が確認された。対象事業実施区域内では確認されなかった。

確認環境は、落葉広葉樹林であった。

○ モンスズメバチ

対象事業実施区域内の2地点で計4個体が、対象事業実施区域外の2地点で計13個体が確認された。このうち、改変区域内では1地点で3個体が確認された。

確認環境は、草地及び落葉広葉樹林であった。

○ クズハキリバチ

対象事業実施区域内の1地点で1個体が確認された。改変区域内での確認であった。

確認環境は、草地であった。

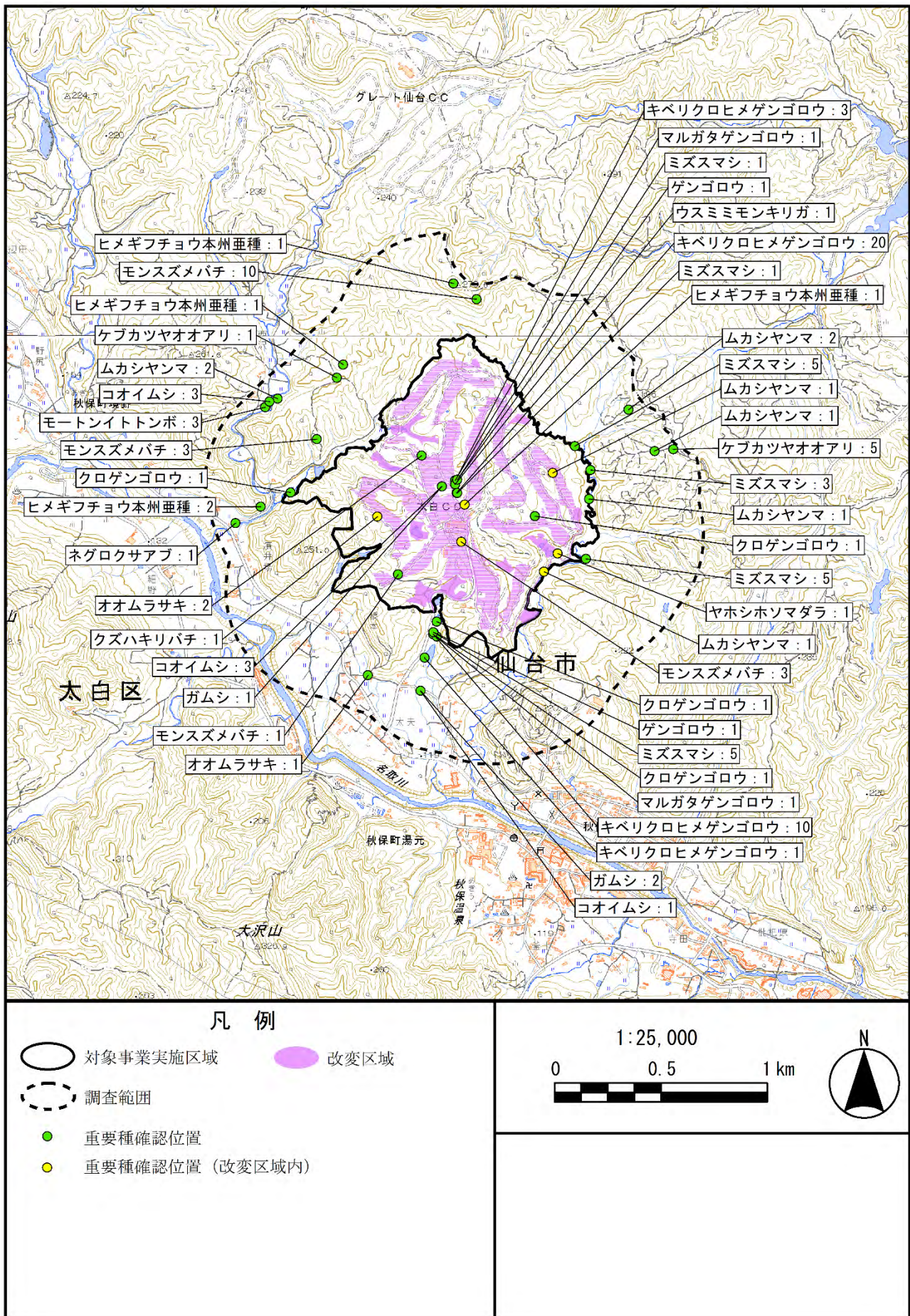


図 12.1.4-15 重要な昆虫類の確認位置

(カ) 重要な陸産貝類

現地調査で確認された種のうち、前述の選定基準（表 12. 1. 4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12. 1. 4-44 にとりまとめた。その結果、オオタキキビが選定された。確認状況は以下のとおり、確認位置は図 12. 1. 4-16 のとおりである。

表 12. 1. 4-44 重要な陸産貝類（現地調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準					
				内 改変区域		外	①	②	③	④	⑤	
				内	外						I	II
1	柄眼	ベッコウマイマイ	オオタキキビ	○	○				NT			
合計	1 目	1 科	1 種	1 種	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	0 種	0 種

- 注：1. 種名は「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅲ」（平成 10 年、環境庁）に準拠した。
 2. 選定基準は表 10. 1. 4-36 中の番号に対応する。
 3. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

○ オオタキキビ

対象事業実施区域内の 2 地点で 2 個体が確認された。このうち、改変区域内では 1 地点で 1 個体が確認された。

確認環境は樹林内の低木やササ類の葉上であった。

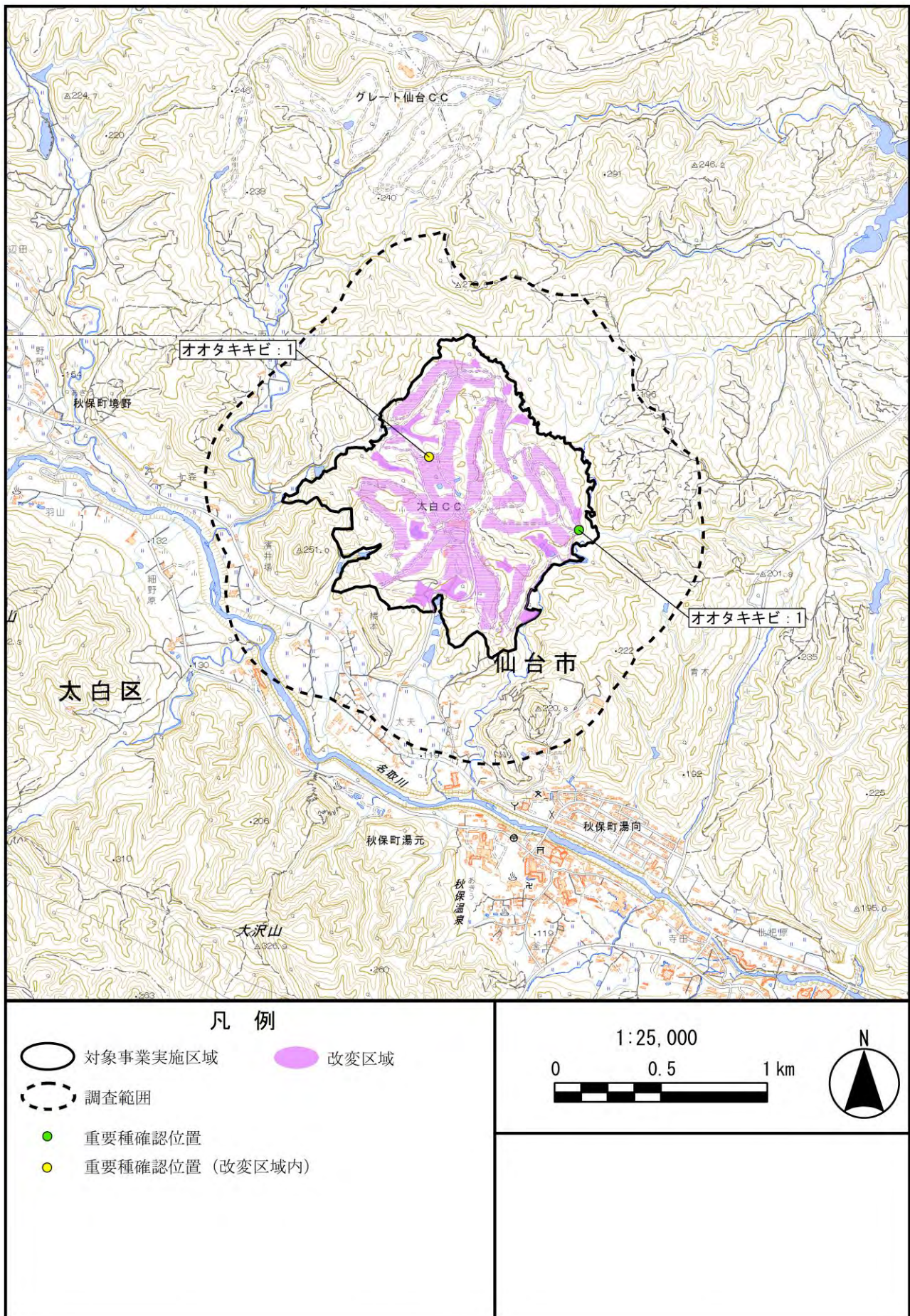


図 12.1.4-16 重要な陸産貝類の確認位置

(キ) 重要な魚類

現地調査で確認された種のうち、前述の選定基準（表 12. 1. 4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12. 1. 4-45 にとりまとめた。その結果、キンブナ、ドジョウ類、ホトケドジョウの 3 種が選定された。確認状況は以下のとおり、確認位置は図 12. 1. 4-17 のとおりである。

表 12. 1. 4-45 重要な魚類（現地調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準						
				内		外	①	②	③	④	⑤		
				変更区域							I	II	
				内	外								
1	コイ	コイ	キンブナ	○	○	○			VU	VU			
2		ドジョウ	ドジョウ類※			○			●	●			
			(ドジョウ)						(NT)				
			(キタドジョウ)						(DD)	(DD)			
3		フクドジョウ	ホトケドジョウ	○		○			EN	NT	1		
-	1 目	3 科	3 種	2 種	1 種	3 種	0 種	0 種	3 種	3 種	1 種	0 種	

注：1. 種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（河川環境データベース 国土交通省、令和3年）に準拠した。

2. 選定基準は表 12. 1. 4-31 中の番号に対応する。
3. 表中の※については以下のとおりである。

※：ドジョウ類は、ドジョウ、キタドジョウのいずれかである。

4. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

○ キンブナ

魚類調査地点 W6、W11、W15 で計 3 個体が確認された。このうち、変更区域内では 1 個体が確認された。

確認環境は、溜め池であった。

○ ドジョウ類

魚類調査地点 W13 で 3 個体が確認された。変更区域内では確認されなかった。

確認環境は、河川水際の植物帯や落ち葉溜まり等であった。

○ ホトケドジョウ

魚類調査地点 W3、W4、W9、W10、W11、W13、W14、W15、W16 で計 245 個体が確認された。このうち、変更区域内では 103 個体が確認された。

確認環境は、溜め池や河川の砂泥内や落ち葉溜まり等であった。

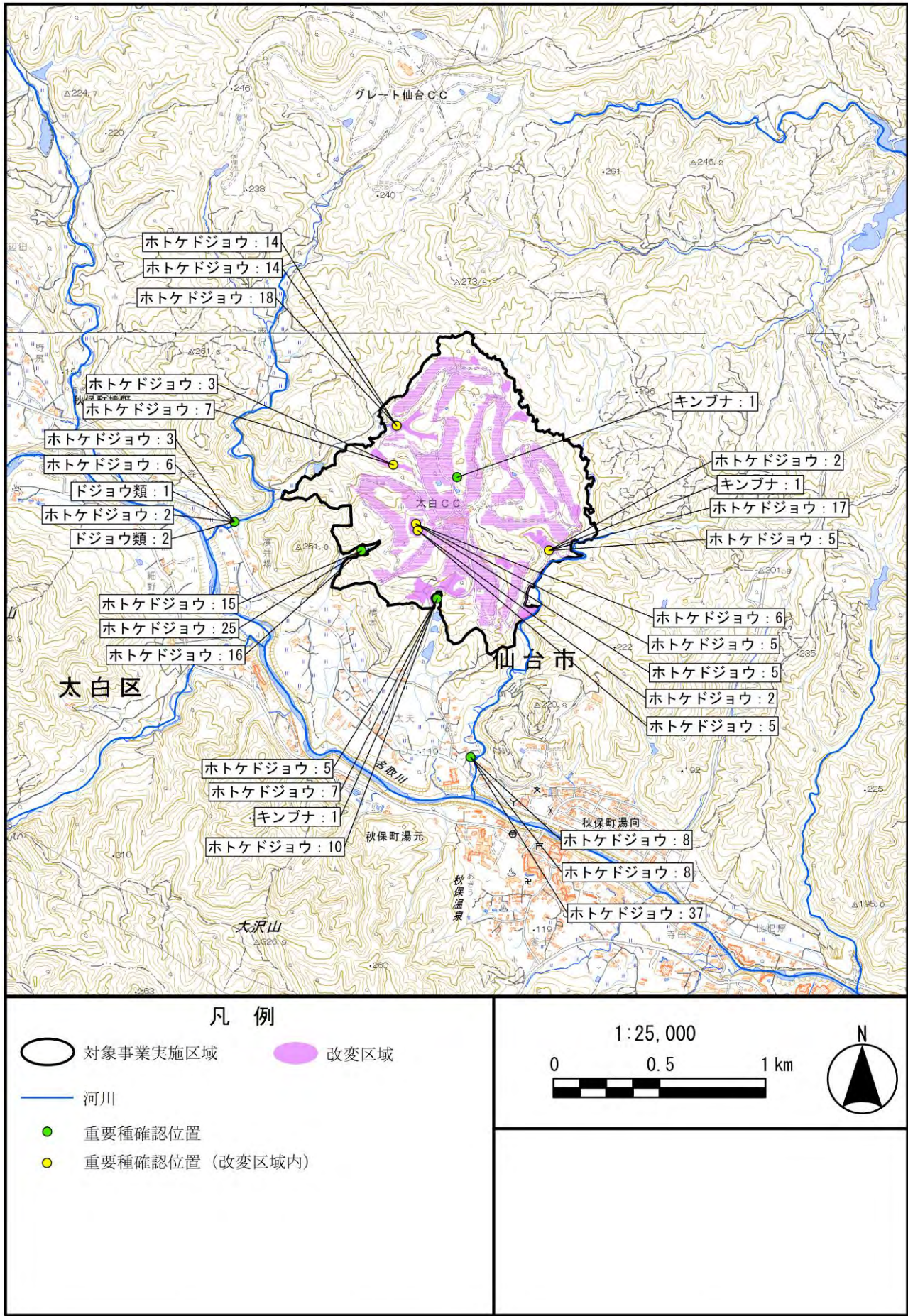


図 12.1.4-17 重要な魚類の確認位置

(g) 重要な底生動物

現地調査で確認された種のうち、前述の選定基準（表 12. 1. 4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12. 1. 4-46 にとりまとめた。その結果、マルタニシ、オオタニシ、モノアラガイ、ヒダリマキモノアラガイ、ヒメヒラマキミズマイマイ、コオイムシ、クロゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、ミズスマシ、ガムシの 11 種が選定された。確認状況は以下のとおり、確認位置は図 12. 1. 4-18 のとおりである。

表 12. 1. 4-46 重要な底生動物（現地調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準					
				内		外	①	②	③	④	⑤	
				変更区域							I	II
				内	外							
1	新生腹足	タニシ	マルタニシ		○	○			VU			
2			オオタニシ			○			NT			
3	汎有肺	モノアラガイ	モノアラガイ	○		○			NT			
4		ヒラマキガイ	ヒダリマキモノアラガイ	○		○			CR+EN			
5			ヒメヒラマキミズマイマイ	○					EN	DD		
6	カメムシ(半翅)	コオイムシ	コオイムシ	○	○				NT	NT	1	
7	コウチュウ (鞘翅)	ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	○	○	○			NT			
8			マルガタゲンゴロウ		○				特定	VU		
9			キベリクロヒメゲンゴロウ		○					NT		
10		ミズスマシ	ミズスマシ	○	○	○				VU		
11		ガムシ	ガムシ		○	○				NT		
合計	4目	7科	11種	6種	7種	7種	0種	1種	11種	2種	1種	0種

注：1. 種名及び種別は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（河川環境データベース 国土交通省、令和3年）に準拠した。
 2. 選定基準は表 12. 1. 4-31 中の番号に対応する。
 3. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

○ マルタニシ

底生動物調査地点 W2 で 5 個体、W15 で 7 個体が確認された。変更区域内では確認されなかった。
 確認環境はいずれもため池の抽水植物帯であった。

○ オオタニシ

底生動物調査地点 W15 で 9 個体が確認された。対象事業実施区域内では確認されなかった。
 確認環境はため池の抽水植物帯であった。

○ モノアラガイ

底生動物調査地点 W9 で 2 個体、W10 で 10 個体、W14 で 8 個体が確認された。このうち、変更区域内では 12 個体確認された。
 確認環境はいずれもため池の抽水植物帯であった。

○ ヒダリマキモノアラガイ

底生動物調査地点 W10 で9 個体、W14 で3 個体が確認された。このうち、改変区域内では9 個体確認された。

確認環境はいずれもため池の抽水植物帯であった。

○ ヒメヒラマキミズマイマイ

底生動物調査地点 W12 で11 個体が確認された。いずれも改変区域内での確認であった。

確認環境はため池の抽水植物帯であった。

○ コオイムシ

底生動物調査地点 W4 で1 個体、W5 で1 個体が確認された。このうち、改変区域内では1 個体確認された。

確認環境はいずれもため池の抽水植物帯であった。

○ クロゲンゴロウ

底生動物調査地点 W4 で1 個体、W6 で1 個体、W8 で1 個体、W16 で1 個体が確認された。このうち、改変区域内では1 個体確認された。

確認環境はため池の抽水植物帯及び河川の緩流部であった。

○ マルガタゲンゴロウ

底生動物調査地点 W8 で2 個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境はため池の抽水植物帯であった。

○ キベリクロヒメゲンゴロウ

底生動物調査地点 W5 で1 個体、W6 で3 個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境はいずれもため池の抽水植物帯であった。

○ ミズスマシ

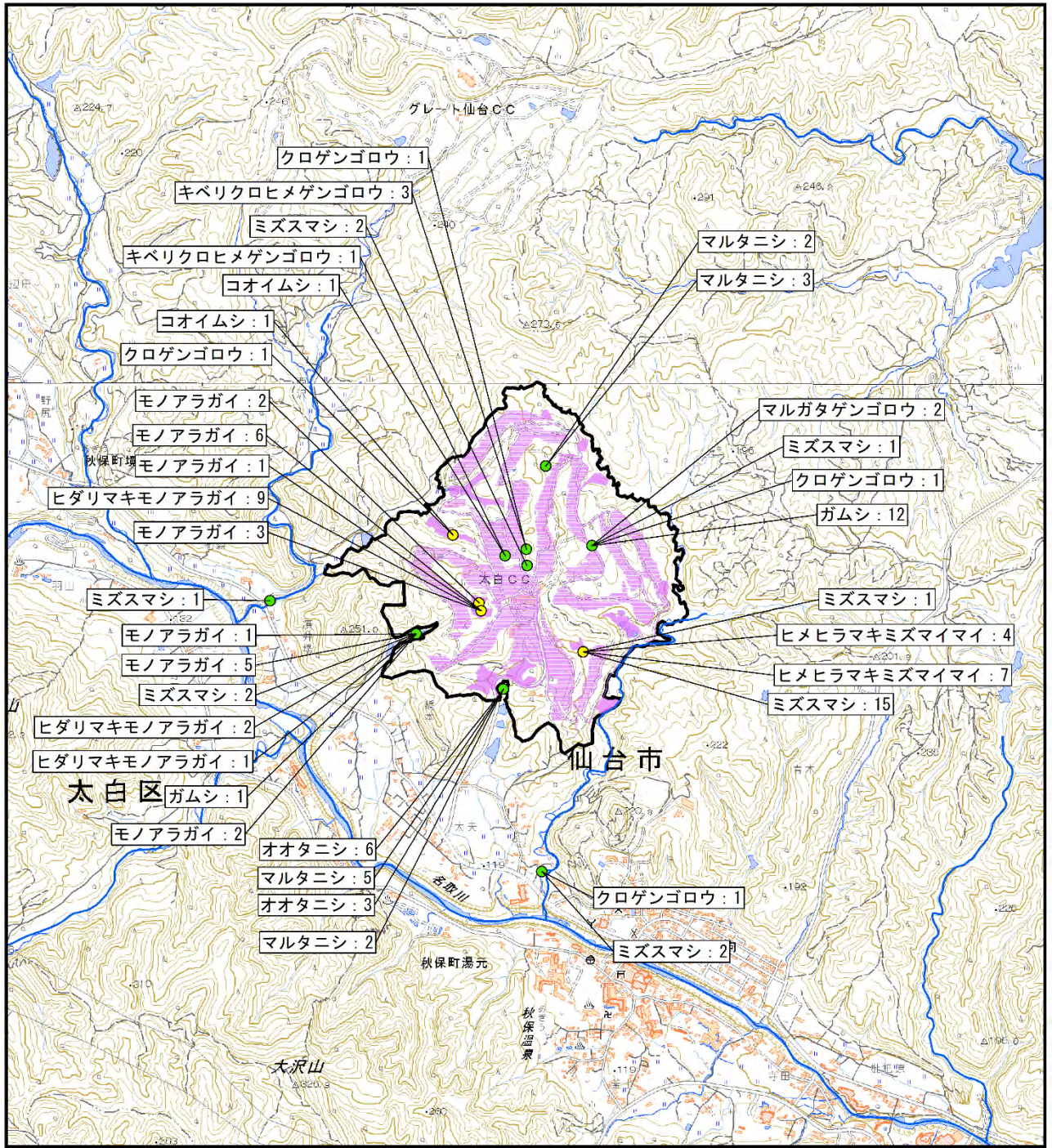
底生動物調査地点 W7 で2 個体、W8 で1 個体、W12 で16 個体、W13 で1 個体、W14 で2 個体、W16 で2 個体が確認された。このうち、改変区域内では16 個体確認された。

確認環境はため池の水面上及び河川の緩流部であった。






○ ガムシ

底生動物調査地点 W8 で12 個体、W14 で1 個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境はいずれもため池の抽水植物帯であった。



凡 例

	対象事業実施区域		変更区域
	河川		重要種確認位置
			重要種確認位置 (変更区域内)

1:25,000

0 0.5 1 km

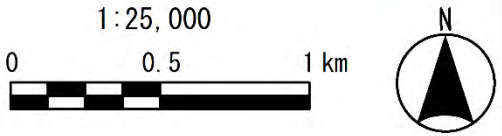


図 12.1.4-18 重要な底生動物の確認位置

(ウ) 重要種が確認された池の保全状況

対象事業実施区域に存在する池での、重要な種の確認状況は表 12. 1. 4-47 のとおりである。また、重要な種が確認された池の保全状況は図 12. 1. 4-19 及び表 12. 1. 4-48 のとおりである。

表 12. 1. 4-47 池で確認された重要な種一覧（現地調査）

項目	種名	池（魚類・底生動物調査地点、調整池）															
		① W2	③ W3 A1	④ W4 A2	⑤ W5	⑥ W6	⑦ W7	⑧	⑨ W11 B5	⑩ W12 B6	⑪ W8	⑫ W9 W10 A3	⑬ W13	⑭ W14	⑮ W15	⑯ W16	
両生類	トウホクサンショウウオ	○						○			○						
	ヤマアカガエル									○							
	トウキョウダルマガエル									○							
	ツチガエル		○		○	○				○	○						
昆虫類	コオイムシ				○												
	クロゲンゴロウ							○									
	ゲンゴロウ					○											
	マルガタゲンゴロウ					○											
	キバリクロヒメゲンゴロウ					○	○										
	ミズスマシ					○	○										
	ガムシ				○												
魚類	キンブナ					○		○							○		
	ドジョウ類											○					
	ホトケドジョウ		○	○				○			○	○	○	○	○	○	
底生動物	マルタニシ	○														○	
	オオタニシ															○	
	モノアラガイ										○		○				
	ヒダリマキモノアラガイ										○		○				
	ヒメヒラマキミズマイマイ								○								
	コオイムシ			○	○												
	クロゲンゴロウ			○		○				○						○	
	マルガタゲンゴロウ									○							
	キバリクロヒメゲンゴロウ				○	○											
	ミズスマシ						○			○	○		○	○		○	
	ガムシ									○				○			

注：1. 底生動物調査で確認された昆虫類に関しては、底生動物として整理した。そのため、一部種が重複している。

2. 池⑧は、図12. 1. 4-19の地形図上にも示されない池であったこと、改変の予定がない池であったことから、魚類・底生動物調査は実施していないが、両生類や昆虫類などでは調査を実施している。

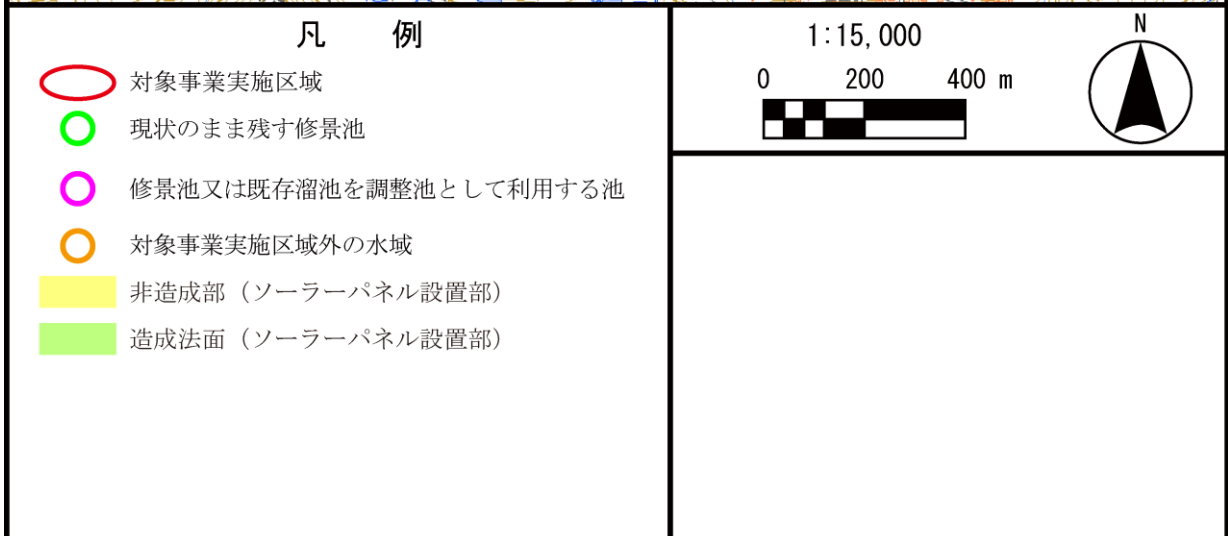
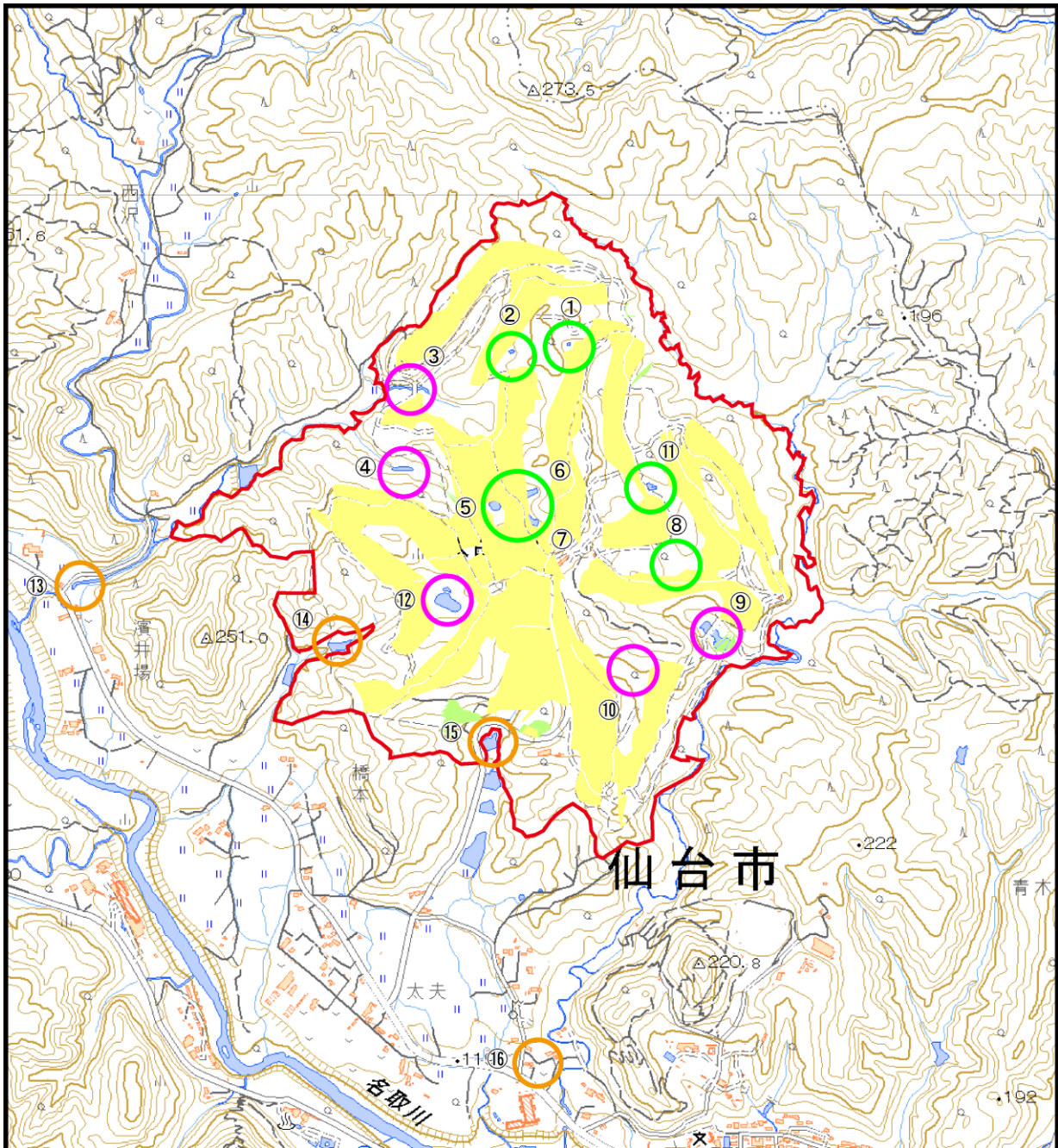


図 12.1.4-19 対象事業実施区域内の池の位置

表 12.1.4-48(1) 重要種が確認された池の状況 (① W2)

図中 No. ①	
池の状況	確認された重要種
	<p>【両生類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トウホクサンショウウオ：卵のう 13 対 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルタニシ：5 個体

表 12.1.4-48(2) 重要種が確認された池の状況 (③ W3 調整池 A1)

図中 No. ③	
池の状況	確認された重要種
	<p>【両生類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツチガエル：鳴き声 1 <p>【魚類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホトケドジョウ：46 個体

注：生息地保全の観点から、公開版の図書には池の状況は表示しておりません。

表 12. 1. 4-48 (3) 重要種が確認された池の状況 (④ W4 調整池 A2)

図中 No. ④	
池の状況	確認された重要種
	<p>【魚類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホトケドジョウ：10 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コオイムシ：1 個体 ・クロゲンゴロウ：1 個体

表 12. 1. 4-48 (4) 重要種が確認された池の状況 (⑤ W5)

図中 No. ⑤	
池の状況	確認された重要種
	<p>【両生類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツチガエル：鳴き声 3、幼生 200 個体、 幼体 3 個体、成体 20 個体 <p>【昆虫類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コオイムシ：3 個体 ・ガムシ：1 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コオイムシ：1 個体 ・キバリクロヒメゲンゴロウ：1 個体

注：生息地保全の観点から、公開版の図書には池の状況は表示しておりません。

表 12. 1. 4-48 (5) 重要種が確認された池の状況 (⑥ W6)

図中 No. ⑥	
池の状況	確認された重要種
	<p>【両生類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツチガエル：幼生10 個体、成体30 個体 <p>【昆虫類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲンゴロウ：1 個体 ・マルガタゲンゴロウ：1 個体 ・キベリクロヒメゲンゴロウ：3 個体 ・ミズスマシ：1 個体 <p>【魚類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キンブナ：1 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロゲンゴロウ：1 個体 ・キベリクロヒメゲンゴロウ：3 個体

表 12. 1. 4-48 (6) 重要種が確認された池の状況 (⑦ W7)

図中 No. ⑦	
池の状況	確認された重要種
	<p>【昆虫類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キベリクロヒメゲンゴロウ：20 個体 ・ミズスマシ：1 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミズスマシ：2 個体

注：生息地保全の観点から、公開版の図書には池の状況はお示ししておりません。

表 12. 1. 4-48(7) 重要種が確認された池の状況 (⑧)

図中 No. ⑧	
池の状況	確認された重要種
	<p>【両生類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トウホクサンショウウオ：卵のう 5 対 <p>【昆虫類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロゲンゴロウ：1 個体

表 12. 1. 4-48(8) 重要種が確認された池の状況 (⑨ W11 調整池 B5)

図中 No. ⑨	
池の状況	確認された重要種
	<p>【魚類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キンブナ：1 個体 ・ホトケドジョウ：24 個体

注：生息地保全の観点から、公開版の図書には池の状況は表示しておりません。

表 12.1.4-48(9) 重要種が確認された池の状況 (⑩ W12 調整池 B6)

図中 No. ⑩	
溜池の状況	確認された重要種
	<p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒメヒラマキミズマイマイ：11 個体 ・ミズスマシ：16 個体

表 12.1.4-48(10) 重要種が確認された池の状況 (⑪ W8)

図中 No. ⑪	
溜池の状況	確認された重要種
	<p>【両生類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマアカガエル：成体2 個体 ・トウキョウダルマガエル：成体6 個体 ・ツチガエル：幼生100 個体、成体21 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロゲンゴロウ：1 個体 ・マルガタゲンゴロウ：2 個体 ・ミズスマシ：1 個体 ・ガムシ：12 個体

注：生息地保全の観点から、公開版の図書には池の状況は表示しておりません。

表 12.1.4-48(11) 重要種が確認された池の状況 (⑫ W9、W10 調整池 A3)

図中 No. ⑫	
池の状況	確認された重要種
	<p>【両生類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トウホクサンショウウオ：卵のう 4 対 ・ツチガエル：鳴き声 1、幼生 2 個体 <p>【魚類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホトケドジョウ：23 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノアラガイ：12 個体 ・ヒダリマキモノアラガイ：9 個体

表 12.1.4-48(12) 重要種が確認された池の状況 (⑬ W13)

図中 No. ⑬	
池の状況	確認された重要種
	<p>【魚類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドジョウ類：3 個体 ・ホトケドジョウ：11 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミズスマシ：1 個体

注：生息地保全の観点から、公開版の図書には池の状況は表示しておりません。

表 12.1.4-48(13) 重要種が確認された池の状況 (⑭ W14)

図中 No. ⑭	
池の状況	確認された重要種
	<p>【魚類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホトケドジョウ : 56 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノアラガイ : 8 個体 ・ヒダリマキモノアラガイ : 3 個体 ・ミズスマシ : 2 個体 ・ガムシ : 1 個体

表 12.1.4-48(14) 重要種が確認された池の状況 (⑮ W15)

図中 No. ⑮	
池の状況	確認された重要種
	<p>【魚類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キンブナ : 1 個体 ・ホトケドジョウ : 22 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルタニシ : 7 個体 ・オオタニシ : 9 個体

注 : 生息地保全の観点から、公開版の図書には池の状況は表示しておりません。

表 12.1.4-48(15) 重要種が確認された池の状況 (⑩ W16)

図中 No. ⑩	
池の状況	確認された重要種
	<p>【魚類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホトケドジョウ : 53 個体 <p>【底生動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロゲンゴロウ : 1 個体 ・ミズスマシ : 2 個体

注：生息地保全の観点から、公開版の図書には池の状況をお示ししておりません。

(2) 注目すべき生息地

現地調査では、注目すべき生息地は確認されなかった。